

流行ニュース:

< エボラ、ウガンダ >

1月23日、保健省の報告によると、グル地域で新しい患者が発見された。これにより患者数は396、死亡数は150となった。マシディ地域では2000年12月19日以来新しい患者は報告されていない。マシディ地域での患者数27、死亡数19。WHOはウガンダへの旅行や貿易を特に制限していない。

< コンゴ共和国でのウイルス性出血熱に関する未確認の噂 >

WHO保健省の当局者と、国境なき医師団からなるチームはブニアでのウイルス性出血熱の噂に関しての調査をしたが、ウイルス性出血熱の証拠は発見されなかった。参照：No.3、2001、p.17

今週の話題:

< アフリカ旅行者のマラリアの危険性 >

WHOはアフリカから戻ってきた旅行者がマラリアに感染しているという報告を最近多数受けており、旅行者へ可能なすべての予防対策を取るよう勧告している。

- ・ 抗マラリア薬であるメフロキンは旅行する2、3週間前に服薬し始める。
- ・ 摂取開始が遅れた旅行者に対しては、メフロキンの代わりにドキシサイクリンを旅行へ行く前日から毎日服薬する。
- ・ 両薬とも、滞在している間、そして旅行から帰ってきた後も4週間は服薬が必要である。

すべての抗マラリア薬には禁忌と副作用が存在するため、専門の内科医かまたは旅行医学を専門にしている病院で処方してもらう必要がある。マラリアは殺虫剤そして蚊帳を用い、さらに適切な抗マラリア薬を正しく服用することにより予防可能な感染症である。しかし、旅行者はこれらによって完全に保護されるわけではなく、感染した場合には緊急に医療機関で治療を受けなければならない。マラリアの初期症状は穏やかで、発熱・倦怠感、そしてインフルエンザ様の症状を伴う。もし頭痛・筋肉痛・倦怠感・嘔吐・下痢・咳などの症状の有無に拘わらず、マラリアに感染した可能性のある時期から1週間後、遅い場合には2ヶ月以上後に発熱がひどくなってきたなら、マラリアを疑い医療機関を訪れる必要がある。マラリアは早く治療すれば、治る病気である。なお、旅行者に対するマラリア予防に関する情報は、WHOのウェブサイト、<http://www.who.int/ith> から得ることが出来る。

< エジプトにおける 型ワクチン由来のポリオウイルスの蔓延 >

1988年、世界保健会議で2000年までに世界的にポリオを根絶するという決議が出され、1988年以來のこの運動により野生株ポリオウイルス 型は今にも根絶されようとしている。しかし、野生株ポリオウイルスが根絶される一方で、ワクチン由来性のポリオウイルスの蔓延が報告された。

1988年から1993年の5年間のうち、エジプトの8地域からワクチン由来のポリオウイルス 型と関連したポリオ患者が32人報告された。この分離されたウイルスは、ヌクレオチドの分析(VP1)により、経口ポリオウイルスワクチンのSabinの 型(Sabin2)と関連があり、野生株のポリオウイルス 型とは関連がないということが明らかとなった。この分離されたウイルスは、急性弛緩性麻痺(AFP)を伴う患者から分離される標準的なワクチン由来のポリオウイルスとは異なり、純粋にSabin2株との関連が強かった。

* 編集ノート：経口ポリオワクチン由来のポリオの蔓延は最近ではドミニカ共和国、ハイチで起こって

おり、そこで確認されたウイルスはワクチン由来のポリオウイルス 型と関連があった。中国からの最近の報告では、分離されたウイルスのヌクレオチドは Sabin2 株と関連があった。これらのケースは、経口ポリオワクチンの普及率が低い地域で起こっている。ポリオの拡大を防ぐためにも世界の予防接種活動を徹底していく必要がある。

< デング熱、デング出血熱に関するチェンマイ宣言 >

2000年12月20日から24日、タイのチェンマイで41カ国700名以上の公衆衛生の専門家が参加した国際会議が開かれ、デング熱伝染の恐れのあるすべての国において、予防の維持と感染症の管理計画を発展、実行させること、および以下の事項が確認された。

- ・ WHOによるデング熱、デング出血熱の予防と管理の大規模な計画の承認。
- ・ 予防と管理能力の改善と維持には政治的参加と資源を増強の必要性。
- ・ 国際間、地域内、国内、地元の機関、NGO、財団、私的団体、地域組織などの横との協力を促進する。
- ・ デング熱、デング出血熱の治療、サーベイランス、予防、管理に関する健康システムの能力を構築し、強化する。
- ・ デング熱、デング出血熱の予防と管理に関わる計画と手段に対して、その開発と改善の発展、応用、評価を追及、促進、支持する。

< 公衆衛生における大学院修士課程 統計学的、疫学的、操作的方法における専門家 >

WHO後援の下1963年に創設されたこの課程は、公衆衛生における知識を広げ、専門活動の過程で必要とされる方法を取得することが目的である。この課程はブリュッセル自由大学の公衆衛生学部で、毎年、9月中旬から2月下旬までの約6ヶ月間のプログラムである。

e-mail:catherine.neyrinck@ulb.ac.be

<訂正> No.50、2000、p.412 「2000年5月、WHO、UINICEF、アメリカのCDCが…」

流行ニュースの続報：< インフルエンザ >

カナダ(2001年1月7日)¹：インフルエンザB型に関連した流行が増加。今までのところ主にB型が分離されている。

香港(2001年1月14日)²：1月第2週目、託児所でインフルエンザA型が検出された。B型は2000年12月の流行以来、散発的に分離されている。

ノルウェイ(2001年1月7日)³：インフルエンザの活動性はわずかに増加、しかし散発的である。季節の初めに4つのウイルスが分離されたのみである。すべてA型(H1N1)。

その他、ブルガリア、デンマークなどインフルエンザの局地的な流行が報告されている。

参照：¹No.45,2000,p.368 ²No.47,2000,p.384 ³No.51/52,2000,p.423

(鷺田幸一、石川雄一、中園直樹)